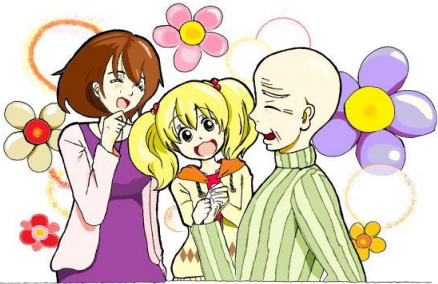


myらいふ

● 記事のご案内 ●

1985. 4. 25~
-149号-

- ① 英語で子ども国際体験
- ② ウィークエンド体験「粘土細工でおひな様をつくろう」
- ③ 源氏物語の会
- ④ 多肉植物寄せ植え教室
- ⑤ プラネタリウム「アニメーション映画と星空解説」
- ⑥ 学芸員講座「資料から見える鹿沼の歴史」



myらいふは、市民編集員が取材・編集する生涯学習情報記事です。

A B C 工作しながら楽しく学ぼう! 英語体験

3月12日(日)市民情報センターで行われた、「英語で子ども国際体験」の取材に行ってきました。講師はサニータイム国際体験スクールの荒川シージー先生、羽根辺坐先生のお二人で参加者は対象年齢4歳~小学6年生の29名の子どもたちでした。

今回は10月から始まった全6回シリーズの最終日でテーマは「数字」。春が近いのでイースター(復活祭)にちなんだイースターエッグ作りです。

まずは大きな声であいさつと1~20の数の発音でスタート。次に、英語の発音を繰り返しながら、使用する材料の卵、クレヨン、ペーパータオル、食紅の入ったコップ、スプーン、筆などが、子どもたちに配られています。

作業は①3つの卵にクレヨンで模様を描き、食紅で色付けをして本格的なイースターエッグを作る。②配られた白い画用紙でハサミを使い、卵を切り取り色塗りをしながらメッセージカードを作る。③4色の薄紙を合わせてお花を作る。のつです。

イースターにちなんだ絵本を読み聞かせしてもらったり「卵をください」「紙をください」「ハサミに気をつけて」「ありがとう」などの言葉を英語で教わりながら、子どもたちの作業はどんどん進んでいきます。最初は自信がなく小声で発音していた子どもたちも、簡単な会話を繰り返すうちに元気に大きな声で発音できるようになってきました。

そして約2時間で色とりどりの沢山のイースターエッグが完成し最後に皆で記念撮影。「幼稚園でも学校でも英語の時間があるので少しでも早く慣れてくれるように参加しました。」と保護者の方。

講師のシージー先生は「レッスンではなく、色々な季節の行事を通して楽しく英語に親しんでもらう講座です。最近は、英語への関心が増えてきているので、これからもまた機会をもって参加してほしいです」とのことでした。



ウィークエンド体験で おひな様づくり

ウィークエンド体験「粘土細工で動物のおひな様を作ろう」が2月4日（土）文化活動交流館で開催され取材してきました。



地域の中高年やボランティアの方々が子どもたちに様々な体験をさせてくれるこの講座。今回は藤沼清美先生がペットボトルの蓋を使ったエコな雛人形の作り方を教えてくださいました。参加人数は6人。女の子が5人、男の子が1人でした。



用意された材料は、ペットボトルの蓋、紙粘土、フェルト、折り紙、ビーズ等です。はじめに、ペットボトルの蓋の上に紙粘土をまるめてのせ、フェルトを巻きつけ、木工ボンドでしっかりとつけます。次に、猫やうさぎの耳となる部分を厚紙で作ります。扇や笏しやくも同様に切り抜き紙粘土に貼り付けます。人形の目や鼻、ひげは、紙の上で練習してから、マーカーで本描きます。その時に鼻を最初に描き入れるのがコツです。人形の両端には、まるめた紙粘土を3つ重ねて、ぼんぼり飾りを団子に見立てて作ります。最後に、色とりどりのビーズをちりばめ、きらきら光るマニキュアを塗って完成です。力作揃いのおひな様はどれも可愛い笑顔を浮かべています。

細かい作業が多かった中で、手先を器用に使って楽しそうに取り組んでいた子どもたち。「作る喜び、達成感を味わってもらいたい」とおっしゃる藤沼先生は「子どもたちが自分の手で何かを作ることによって、創造性、発想力、集中力が養われ、それは生きる力をつけることにつながる」という考えのもとに講師をされているそうです。



完成したおひな様を嬉しそうに眺めていた子どもたちは「はじめて会った子と話ができてよかった」「自分ひとりで作れたのがうれしかった」と感想を話してくれました。

“夢中になれる時間”を子どもたちに体験させてくれるウィークエンド体験！ぜひおすすめしたい講座です。

さあ あなたも 雅な世界へ 源氏物語 ～紅葉賀の巻～

かぬまマイ・カレッジ主催「源氏物語の会」が2月16日（木）市民情報センターで開催されました。講師は、日本古典文学についての講座を各地で開催をされている石島崇男先生。当日は15名の参加者でした。

源氏物語は、紫式部が貴族社会を背景とした光源氏の華やかな生涯を描いた小説です。千年以上前（西暦1000年初頭）に完成されたと言われていま

す。「桐壺の巻」～「夢浮橋の巻」までの、趣深い長短54帖の巻があり、今回は30回目の講座で「紅葉賀の巻」についての講座でした。

講師は、原文をよみながら解説を進めていきます。原文には、わたしたちにはなじみのない言葉が多く、分かりやすく説明するには相当な知識と読解力が必要なように感じました。通り一遍の読みでは及ばない解釈を、とても分かりやすく楽しく説明して下さるので、

参加者の皆さんのまなざしも聞き入るように真剣そのものでした。

この日も様々な場面を説明していただきましたが、光源氏と若紫が紅葉狩りに出かけた中で、源氏が笛を吹いて若紫が琴を弾いた描写が印象的でした。千年も昔に描かれたものですが、その世界の雅な雰囲気を感じることができました。受講生のみなさんも、源氏物語を読み解くことで、平安時代の雅な世界に浸ることができたのではないのでしょうか？



春のきざし！ 寄せ植えにチャレンジ！！

3月12日(日)市花木センター内の屋外八角堂で「多肉植物寄せ植え教室」が開催されました。講師は福田洋一さん。参加者はおとな20名と親子4組でした。当日は薄曇りで時々風が吹くなか、室外での作業でした。

はじめに大小二つの植木鉢にペイントします。大きい鉢にはベースになる色を外側に、小さい鉢にはペン立て等の小物入れにしてもいいように内側にも塗ります。出来上がりをイメージし、細筆太筆を用いて13色のアクリル絵の具を使い、好みのカラーを重ね塗りします。

次に10種類ほどの多肉植物の中から各自5本選びます。講師から、植物の説明や土の入れ方、植える際の注意事項を聞きながら作業に取り掛かります。多肉植物とはトゲが無く葉や茎に水を貯えている植物で、トゲの有無でサボテンと見



分けるそうです。霜を避けて日光が良く当たる場所に置き、2~3週間に一度底穴から出るぐらいたっぷりと水をあげます。徒長した茎の切り方や再利用の方法まで丁寧に教えていただきました。

それぞれに個性のある24鉢が完成しました。参加者からは「もう一度自宅で作ってみたい」

「多肉植物を初めて触れて楽しかった」との感想をいただきました。

花木センター内の梅も色づき、春の気配を感じる一日となりました。

※徒長…茎が細く葉の間隔が長く間伸びした状態のこと。



星空を眺めながら

3月18日(土)市民文化センター プラネタリウムで行われた、「星空アニメ映画会」の取材に行ってきました。当日は三連休の初日、定員の137席がほぼ満席で沢山の方が参加されていました。今回はアニメ映画とともに「春の星空」を紹介です。アニメ映画は子供たちが大好きなディズニーの「ドナルドダックの乳しぼり」、くまのプーさん「イーヨのお誕生日」と、おれたち友達シリーズの「ともだちや」の3本を上映。アニメ上映の合間に、進行の方のとてもわかり易い語りで北斗七星や北極星をはじめ、星座の物語などを楽しみながら鑑賞していきます。



当日はお父さんやお母さんと一緒に参加の小さな子どもたちが多かったのですが、アニメの上映中と同じように、星座の解説も皆静かに熱心に聞いていました。中には星の名前を元気で言ってくれる子どもたちもいました。「楽しかった。あっという間だった」と保護者や子どもたち。次回は7月の予定だそうです。アニメと星空鑑賞以外に、星だけの本格的な鑑賞会も行なわれているそうで、そちらもぜひ体験、参加して頂きたいとのことでした。

久しぶりにプラネタリウムを通して星を眺めました。星空に囲まれると不思議な感覚に包まれ安らぐ気がします。プラネタリウム、星の鑑賞体験してみませんか？

身近な歴史にふれる古文書解読の楽しみ

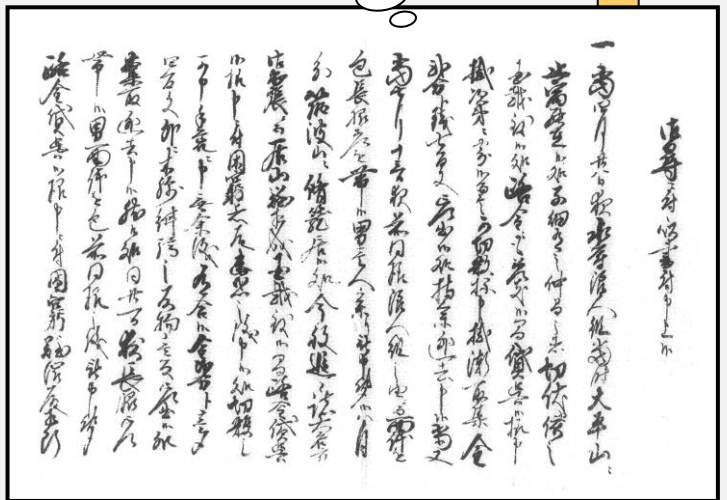


2月18日(土) 市民文化センターで「第3回学芸員講座 資料から見える鹿沼の歴史『古文書を読んでみよう』」が開催されました。講師は市文化課の堀野周平さん。18名の受講生が集まりました。

講座はまず古文書とは何か?という話から始まりました。辞書を引くと「過去の時代の資料となる古い文書。差出人・受取人・用件・日付などを備えた公文書や私文書」とあります。

人別帳(戸籍台帳)や高札などもこれに含まれますが、厳密な定義はないそうです。鹿沼市の文化課には約15万件の古文書が保管されていて、江戸時代のものが多いとのこと。

今回の講座で解読する古文書は江戸幕末期の元治元年(1864)に、茂呂村の百姓と組頭の連名で鹿沼宿の役人に提出された強盗被害の報告書です。受講生にA3判3枚の文書コピーが配布されると、一見して何が書いてあるのかまったくわからないといった様子で、会場のあちこちからため息が漏れました。文書は毛筆書きの全文約400字ほどですが、ひらがなはわずか7字、カタカナ約20字、あとはすべて漢字でしか
おいえりゅう
も御家流というくずし字で書かれている箇所も多いので、その解読がこの講座の本題です。くずし字の一字一字を今私たちが使っている漢字に当てはめることができれば、おおまかな内容がわかってきます。



講師が説明をまじえて解読した文字を黒板に書いてゆくと、うなずきながら書き写す受講生の表情には、問題が解けてゆく学びの喜びを感じ取ることができました。約150年前の鹿沼で、幕末の混乱に乗じた浪人の一団が農家に押し入り、刀を突き付けて農民から金銭などを強奪したという事実の記録は、まるで映画やテレビの時代劇を見るよう。古文書や郷土の歴史への関心とともに、現代の安全な世の中へのありがたさも思い知らされた講座でした。



編集後記

日差しが暖かい季節となりました。今年も、庭に小さなタンポポが顔を出し、鉢のパンジーも新しい花芽をつけ、あたりにたくさんの春を感じることができました。これからの季節も楽しみです。 藤沼